

平成25年度事業報告書

◎ 社会福祉法人清水ヶ丘福祉会の運営報告

1. 収入として	施設経理区分	総額	183,862円
	預金利子	総額	97円
2. 支出として	通信費	総額	121,317円
	交通費	総額	45,500円
	雑費	総額	3,789円

◎ 清水ヶ丘保育園の運営報告

1. 運営の財源は運営費による。・・・財務諸表参照

2. 入所状況

月 年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0歳児	6	7	9	9	10	11	14	19	19	19	20	20	163
未満児	35	35	35	34	33	32	32	34	34	33	33	33	403
3歳児	19	18	17	17	16	16	16	17	17	17	17	17	204
以上児	41	42	42	42	41	41	42	42	42	42	42	42	501
合計	101	102	103	102	100	100	104	112	112	111	112	112	1271

3. 保育内容

(1) 子ども重視の保育の方向へ

少子化現象が進み、地域・家庭の育児機能の低下が叫ばれている中、保育園の果たす役割はますます重要である。多様化した保育ニーズへの対応とともに、ひとり一人の子どもにどのように関わっていくか、また、保護者への指導や支援をどのように進めていくか、その内容の充実が強く求められている。私たちは子どもたちが安心して状況のなかで園生活を送り、好奇心や探究心、友だちとの友情、感謝の気持ちが育つよう援助を送りながら、暖かく見守っていかなければならない。そのために職員ひとり一人が信頼しあいながら、子ども重視の保育を目指してきた。また、家庭における子育て支援として、電話相談・園庭開放・個別相談や育児講演会等を催し、子育てサービス（出前保育等）を提供している。食育の観点から、保育参加やクラス懇談会時に試食をしてもらい保育所給食を味わってもらった。各家庭には給食献立表意や給食便りを通して給食についての理解と情報提供をした。

(2) 保育環境の充実

保育園周辺も開発が進み、自然環境を含め、大きな変更を余儀なくされてきたが限られた空間を十分に活用していくことが今後の課題である。特に、光を十分に採り入れた乳児室により、更なる保育の充実が図られるであろう。また、室内の環境設定は各担任にまかせるだけでなく、全職員によりチェック体制がある。屋外の環境も充実するよう努力した。栽培活動は、ミニ菜園で以上児を中心に野菜や果物を、園外では今年度も田植え、稲刈りを続けることができた。保育ニーズで最も要望が多い延長保育であるが、午後7時までの時間で対応している。給食に関しては、栄養士を雇用し、より充実した手作りの給食を心がけている。

4. 保護者との交流

年間の園内・園外行事を保護者と連絡をとりながら計画し、家庭に負担がかからないように、子どもたちが喜ぶように努力をした。主な活動は事業計画書のとおりである。

5. 職員に研修状況

熊本市や保育団体が企画する研修会を中心に参加をしている。また、保育園内での研修も観察記録やその方法、実践を検討した。特に、保育課程を基に研修を重ねた。県内外の研修にも参加をするように心がけている。更に、一社会人としてのモラルや職員としての意識共有化について重点的に研修をした。

6. 職員処遇の改善・向上

職員の定数を自主基準でやっている。4週5日制を導入している。社会環境や保育環境に鑑み、就労時間を40時間になっている。延長保育との兼ね合いで超過勤務時間が年々増加しているが、交代勤務の導入により、一層の処遇向上に努めたい。

7. 小学校との連携

子どもの生活や発達の連続性を踏まえて、保育園から各小学校へ保育所児童保育要録を提示し、卒園児が学校で豊かな生活が送れるよう連携をしている。また、保育の内容の工夫を図るとともに、就学へ向けて、保育所の子どもと小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報の共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図った。